



なきごえ



1986

2

大阪市
天王寺動物園協会

動物園グラフ

「オセアニアの動物」Ⅱ

天王寺動物園で飼育されるオセアニア産の動物は近年急増しています。これはオーストラリア、ニュージーランドとの動物交流が盛んなことの一つのあらわれでしょう。1980年10月号のグラフ特集に続いて、天王寺動物園のオセアニア産の動物パートⅡをご紹介します。

(撮影：野口秀高)



アオハシインコ

野生ではその数が激減しており、強い保護が望まれています。
(ニュージーランド)



キーウィ

翼が退化して飛翔能力を欠き、嗅覚を有して夜に活動する奇妙な鳥です。
(ニュージーランド)



ブケコ

クイナ類の中でも大形の美しい鳥で、インコのように足で食物をつかむことができます。
(ニュージーランド)



タスマニアデビル

肉食性の有袋獣。しかし名前とはうらはらにとってもかわいい動物です。
(オーストラリア)



フクロギツネ

オーストラリアに広く分布する夜行性の有袋獣です。
(オーストラリア)



ハリモグラ

卵を産む珍しい哺乳類です。
(オーストラリア)



ハイイロカンガルー

オーストラリアを代表する哺乳類。最も大きなカンガルーの一つです。
(オーストラリア)

12・1月の動物園日記

- 12/11. ミカツキハシビロガモを水禽放養舎に展示しました。
- 12/12. カムリカイツブリを1羽保護しました。
- 12/13. カリフォルニアアシカの雌が1頭、動物交換で宮島水族館より来園しました。
- 12/14. ダチョウの1羽の雄が急死しました。
- 12/15. シベリアオオカミの3頭の子に、2回目のワクチン接種を行いました。
- 12/16. アミメキリンの雌「リッコ」が急死しました。
- 12/18. 近畿地区動物園獣医師勉強会が開かれまし

- た。
- 12/19. アンデスコンドルが1個産卵しましたが、おしくも破ってしまいました。
- 12/20. ヨザルが交尾しました。
- 12/21. キーウィ、ハリモグラの定期体重測定を行ないました。
- 12/22. 入院骨折治療中のフサオマキザルの骨折部に、固定のため入れていたピンを抜きました。
- 12/23. 近畿地区動物園技術者研究会が和歌山公園動物園で開かれ、当園から2名参加し、2題の研究発表を行ないました。
- 12/27. ブラックバックが交尾しました。

- 12/28. 左前足を骨折し治ゆ後、足がのびなくなったブラックバックの雌「イク」の整復手術を試みました。
- 12/29. エミューの産卵が始まったため、電気ふ卵器の運転を開始し、2卵を入れました。
- 12/30. 動物病院の大そうじを実施しました。
- 12/31. トラ舎、展示館のしめ縄飾りを行いました。
- 1/2. エミューが今季3卵目を生みました。「エトに因むトラの郷土玩具展」が始まりました。
- 「トラを観る会」が行なわれました。
- 1/3. ダマシカが交尾しました。
- 1/5. 今年のエトに因み、土井園長による「トラ

- の話」がレクチャールームにて行なわれました。
- 1/7. アオハシインコが交尾しました。昨年12月3日に来園したトラの雄が、初めて運動場で雌2頭と同居しました。
- 1/8. オオガラコが交尾しました。
- 1/10. ツル財団のアーチボルト・キョウコ氏が来園、見学されました。マレージャコウネコの雌が、上アゴに咬傷を受けたので、麻酔し治療を施しました。
- 1/11. 1月25日出産予定のジャッカルの子の腹部がふくらみ始めました。

駆けまわりヨーロッパ動物園日記 (下)

§ ケルン動物園

6月1日、ケルン動物園を訪ねました。ここはマダガスカル島に生息するキツネザルという原始的なサルのコレクションで世界的に有名です。また、この動物園では一昨年天王寺にやって来たタスマニアデビルの繁殖に成功しています。この話を聞くのも楽しみのひとつでした。

まずノゲ園長にお会いし、早速タスマニアデビルの事を聞いてみました。しかし、今1ペア飼育しているが長生きは難しく、6年位で死んでしまうことが多いとか。繁殖経験のある園の園長さんから悲観的な話を聞いて少々ガッカリしました。

この動物園は開園して丁度125周年で、園の改造計画が進められています。チーター舎とハイエナ舎は改造のため取り壊されており、類人猿舎は殆んど



完成間近の新類人猿舎

完成し、翌週にはオープンするとのことでした。強化ガラスをふんだんに使った新類人猿舎は緑や遊具が多く、明るく、とても住み心地が良さそうでした。

キツネザルのコレクションは期待通りの素晴らしいものですが、もっと驚いたのはソリハシセータカシギのコロニーです。日本の動物園ではめったに見られないシギですがあまり広くないケージに30羽近くも飼われ、巣があちこちにあり、卵も沢山見られました。恐らく、毎年多数繁殖しているのでしょう。同居しているハマシギやダイゼンと一緒にエサをついばむ沢山のソリハシセータカシギの姿はとても印象的でした。

§ ドゥイスブルグ動物園

翌2日はケルンの北にあるドゥイスブルグの動物園へ。まず、オオカワウソ舎へ。南米に住むこの世界最大のカワウソは絶滅の危機に直面している動物

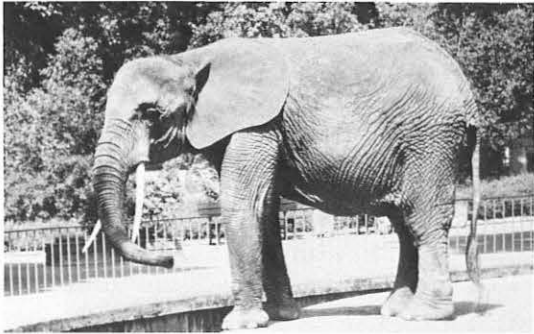


シロイルカとショーをするイロワケイルカ

です。予想通りとても大きく、中型犬の足を短かくした感じです。仲間は絶滅寸前にあるものの、この2頭は元気一杯で一瞬もじっとすることなく、写真を撮るのに難渋させられました。

ここでも園長のゲヴァルトさんからタスマニアデビルのことを聞いてみましたが、数回繁殖したものの結局全部死んでしまったとか。また、よく生きても8、9年と言われ、とても心配になりました。

園長夫妻に園内の社宅で昼食をご馳走になり、マ



珍獣マルミゾウ

ルミゾウやイロワケイルカなどの写真を撮らせていただき、夕方の電車で次の目的地ハムブルグへ向いました。

§ カール・ハーゲンベック動物園

この動物園は筆者にとって特別の動物園です。と言うのは初代園長のカールが著した「ハーゲンベック動物園」という本を小学生の時に読み、その影響で動物園勤務を志したのですから。



正門

様々な動物園の本に引用される有名な門をくぐる正面にオスライオンの頭をやさしくなでるカールの像がありました。この人が自分を動物園界に導いたのか、と大変感慨深い思いがしました。

カールの曾孫にあたるクラウス・ハーゲンベック園長にお会いし、挨拶した後、園内を廻りました。ここも例によって園内は手入れの行き届いた緑が豊かです。夜間開園をすることもあるらしく「6月の毎土曜、午後6時から11時の間、飲んで踊って花火があがって8.4マルク」というポスターが張られていました。

ゾウの運動場で作業をしていた若いキーパーに話しかけてみました。現在アジアゾウのメスばかり10頭飼育しており、その10頭を4人で担当しているそ

うです。どのゾウもよく訓練されていて、園内を散歩させることもありますし、子供動物園で大人や子供を乗せることもしています。サーカスも併設しているこの動物園ならではのことだと思いました。またこのキーパーの父親も現役のゾウのキーパーだそうで、親子2代で同じ動物の世話をしているとのことでした。

ネームプレートや説明札が完備され、展示動物の



入園客とアネハヅル

ひとつとして扱われている恐竜の像や、園内に放飼され、お客さんと戯れるアネハヅルの群などを見せられてからハムブルグを立ちました。

§ フォーゲルパーク

フォーゲルとはドイツ語で鳥のことです。ここは文字通り鳥だけを飼育しているので動物園という言葉は当てはまらないかも知れません。アメリカのツル財団におられ、コウノトリの繁殖行動の研究の為、滞在中のアーチボルド・キョウコさんにお世話になりました。コウノトリはヨーロッパコウノトリと違い、大変繁殖の困難な鳥です。ここのももよく求愛動作を示すのですが産卵まではいっていないとのことでした。

22haある園内は様々な鳥達で一杯です。とにかくここには約1000種5000羽の鳥が飼われているのですから。まず、インコハウスへ入り、写真を撮り始めました。他の動物園でもしてきたように写真を撮り、英名、学名をノートにメモするという作業ですが、これで



造波プールの付いたシギ・チドリ舎

もか、これでもか、といった感じで次から次へと並ぶ珍しいインコに圧倒され、途中でやめてしまいました。インコだけで100種位飼われていたでしょうか。ハダダトキ、オニオオパン、ケツァール、オオフウチョウ、パラエリコウシチョウ等々美しく珍しい

様々な鳥にゲップが出る程満足し、ヴァルスロードのフォーゲルパークを後にしました。

§ フランクフルト動物園

6月5日、最終目的地のフランクフルト動物園を訪ねました。

この動物園は動物の繁殖実績、研究実績、それに新企画の動物舎を持つことで世界的に知られた動物園で、永く園長を務められたGrzimek (ズィーメック)博士は世界の動物園の指導者の立場にある方です。

入園してまず感じたことはどの動物舎も工夫され、動物がとても観察し易くなっているということです。また、繁殖の良好な動物の中でも特にゴリラ、チンパンジー、コビトチンパンジー、オランウータンといった類人猿の繁殖実績が目を引きました。殊にオランウータンは1958年以来26頭の子供が生まれたそうです。

ズィーメック博士を記念したズィーメックハウスという名の夜行性動物舎でゾウハナジネズミの奇態に驚かされたり、オオカワウソ位の体格を持つケープカワウソにビックリしたりしましたが、小鳥類の



奇獣ゾウハナジネズミ

フライトケージの緑の美しさにも驚きました。一枚一枚の葉が輝いているのです。それもそのはず、毎日担当キーパーが葉を一枚一枚丹念にスポンジで洗うのだそうです。お客さんに満足して見てもらう為の動物園側の細やかな配慮に本当に感銘しました。

§ おわりに

こうして14の動物園を訪問し帰国しました。どの動物園も独自の特色を持つ立派な動物園でしたが、共通の印象としては園内もそして動物舎も手入れの行き届いた緑に溢れているという点です。天王寺もここ数年、随分緑が豊かになりましたが、まだまだ足元にも及びません。

また入園客のマナーの良さも印象に残りました。フォーゲルパークでは繁忙期には1日に1万人の入園客があるそうですが翌日園内清掃をする必要はないとのことでした。また、夜行性動物舎の中でお互いに注意し合い、静かに動物を見る小学生の姿に、日本の動物園人としては非常に驚きました。

印象に深く残った出来事は2冊のメモ帳にびっしりとあるのですが、別の機会に譲ることにし、ひとまずペンを置きたいと思います。

— おわり —

(長瀬 健二郎:飼育課・獣医師)

フランソワルトンの誕生

1983年10月12日に大阪市と友好都市の上海市より第5次親善動物として入園したフランソワルトンの夫婦にメスの赤ちゃんが生まれました。その子供の3ヶ月半にわたる成長記録を報告します。

§ 両親

オス、メス共に1983年10月12日に上海動物園より入園。当初は上海動物園の関係者の方々の意見や資料を参考に出来るだけ上海動物園と同じような飼育方法にしようと考えネズミモチ、モチノキ、ニレ、アカシア、ヤナギ等を主食とし順番に与え副食として、リンゴ、人参、サツマイモ、バナナ、パン、キャベツ、インゲンやキヌサヤ等は毎日与えよく食べる物、普通に食べ少し残す物、あまり食べないで殆んど残す物を表にあらわし、給与する餌を検討しました。現在の常食は、ネズミモチ、ホンモチ、リンゴ、バナナ、人参、サツマイモ、インゲン、パン、ピーナツで他に季節によりミカン、スイカ等を与えています。このフランソワルトンは赤い色というか、イチゴなどの赤い色の物を怖がり、ほとんど



生後7日目、左が♀、右が♂

食べません。又外気温度や室内の湿度には当初神経をつかっていたのですが、大阪の気候に早く慣れてもらうには、他のサルアパートの仲間達とできるだけ同じようにした方が彼等のためになるのではと考え、夏の暑い日も雨の多い時も冬の寒い雪の日でもよほどのことがない限り、屋外には出すようにしました。

§ 出産経過

出産1ヶ月程前になるとオスがメスに大変やさし

くなり、以前では餌の時にはほとんどオスが先に食べて、メスには残りものしか与えなかったのですが、メスに餌を先に食べさせて残りをオスが食べるようになりました。メスの身体の変化は乳首が以前に比べてよく目立つようになったかな?という程度でお腹もそんなに目立つことはありませんでした。ただ出産前日の夕方はオスが落ちつかずウロウロとしていたようです。1985年6月15日午前9時にいつものように寝室のフランソワルトンをのぞいて見ると、オスが奇声を発し、メスが変わったものをだいていました。その変わったものは、黄金色のキューピー人形のような物でした。以前横浜の野毛山動物園でフランソワルトンの、犬山のモンキーセンターではシルバールトンの子供を見ていたのにもかわからず、それがフランソワルトンの子供であるということがわかるまでに長い時間がかかり、自分では妊娠しているかと思っていながら出産が信じられず、子供とわかった時の興奮は大変なもので他のサルのことなど忘れ、遠くにいる園長に大声で知らせました。この赤ちゃんは午前8時ごろ出産したものと思われ、メス親は後産をぶらさげており、子供の身体はまだぬれているようで頭部は黄金色で背中上部より、だんだんと茶かっ色になり、尾は完全に茶かっ色であり、頭部に冠毛がありました。哺乳の確認は2時間後の午前10時にでき、午後になると、それまで興奮していたオスも落ち着きをとれどもどし子供のおいをかき、メス親にグルーミングをし「御苦労さんでしたね」とでも言っているようでした。給餌の時も出産



生後7日目の母子

直前と同じようにメス親が先に食べ、オス親は残りを食べていました。

§ 成長経過

6月15日に生まれた子供はメス親にしっかりとしがみつき、メス親はお腹の所で子供をだき、ジャンプする時は片手でしっかりとだきしめて子供が落ちないようにしていました。他の猿の例ではもっと上の部分(胸に近いところ)で抱いているのですが、やはりリーフイーターは樹上をジャンプするためにもっとも安定のよい所で抱いているようです。

生後2日目にはオス親が子供を奪い抱こうとし、メス親があわててとりかえすという行動が見られました。子供はメス親に抱かれながら頭をキョロキョロと動かし手足も動かしていました。生後4日目、目が見えているのかメス親に抱かれ顔を反対に向けて、しきりに近くにある物をつかもうと手を動かしていました。泣き声もだんだん大きくなり泣く回数も多くなってきました。生後8日目、一般公開の為に運動場に出すと子供は「ニャンニャン」とねこのような声で泣き、メス親に力いっぱいしがみついていた。生後12日目にはメス親のまねをして餌箱に手を入れて何かをつかもうとし始めました。メス親は餌を食べる時には子供を餌箱の中に入れて食べるのに熱中していました。生後19日目にはモチノキの幹をしきりにかじって一人遊びをするようになり、この頃から運動場でメス親にグルーミングをしてもらい気持ち良さそうな顔をしているようになりました。生後22日目から餌箱の中に入ったり出たりするようになり、歯も確認されましたが実際にはもっと早く(幹をかじりだしたころ)から生えていたものと思われ。生後26日目には目のまわりに黒い毛が生え始めパン等を食べるようになりました。生後30日目にはメス親は子供を地面において手の届く位置において遊ばすようになり、金網によじ登ったり、とまり木の上に登ったりするので、メス親がヒヤヒヤしながら見ており、子供が泣き声を出すとすぐに抱きにいきました。生後40日目になると、顔全体がうす黒く(よごれているように)なり、運動場ではメス親がおお向けに寝ころんでお腹の上に子供をのせて遊ばせていました。生後60日目ぐらいに顔が黒くなり背中の一部以外真黒になってきました。生後100日を迎えて生まれた時に比べて体の大きさは約2倍になり、体毛もほとんどが黒くなりました。餌も親

と同じ物を食べるようになり、ピョンピョンと飛びはねて遊ぶことが多く元気そのものでした。生後140日目に今季はじめてストーブを入れたのですが、子供は始めて見る物なので好奇心で見つめて、さわろうとするのをメス親が叱るようなしぐさで子供の手を押え、さわらせないように教えているかのようでした。

§ おわりに

親善動物として入園して来たころ、フランソワルトンは他の猿とは違うんだぞ、といったようなプレッシャーがあつてなんとか元気に育ってくれればいいと思いがら何ヵ月かが過ぎました。無事に育つとこんどは、このままの状態ですべて特別扱いをしてい



生後7ヵ月目

とこのサルそのものがだめになるのではないかと、思い他のサルと同じように扱うべきか悩みました。実際に他のサルと同じように扱うと思っていたよりも順応性があつて順調に飼育できました。1年を経過してからは、早く子供が生まれればよいのにと考えるようになりました。運よく子供が生まれれば、死なずに元気に育って欲しいなどと思いつつ、はやフランソワルトンとのつき合いが2年と3ヵ月、ほんとうにあつという間のできごとであったように思います。今年4月下旬に新しいサル舎が完成し、彼等にとって今よりはずっと環境も設備も良くなるのでたのしい生活が送れると思います。最後になりましたが子供の名前は「麗華」(れいか)とつけました。

(飼育課:原田 勉)

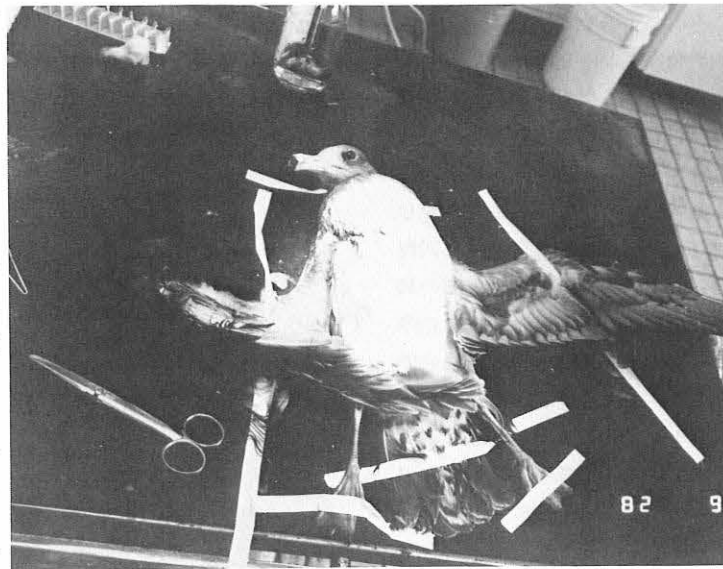
— 動物園の鳥に多いケガと病気 —

当園では、約180種600羽にのぼる鳥たちが飼育されています。また、そのほかに保護動物として来園する鳥たちが年間約200羽にもものぼっています。

今回は動物園で飼育されている鳥と保護された動物によくみられるケガと病気、さらにはその予防法などもまじえてお話ししたいと思います。

1. 過敏な性格が命とり

キジ類は、主にオスの羽色の美しさから愛されてきた鳥ですが、性格はかなり過敏なところがあります。健康なキジでも、捕まえただけでそれがストレスになりショックの状態となり口をパクパクしだします。悪くすると死亡に致るケースも出てきます。治療するときは、なるべく手早く行なわなければなりません。



右翼の骨折のため断翼手術を受けたウミネコ

2. 体型からケガが予測できる

鳥の体型というのは、本当に千差万別。嘴(クチバシ)の長いもの短いもの。足の長いもの短いもの。羽の大きいもの小さいもの。体の大きさも鳥では最小の仲間に入るハチドリでは体重が数グラムほどしかないのに対し、飛べる鳥では最大の仲間に入るコンドルは10kg、飛べないものまで入れるならばダチョウでなんと100kgにも及びます。これらの鳥全てが、生息地にうまく適応した体型をもっていることに間違いはないのですが、その適応で極端に変型した嘴や足、特に細長く伸びたものは折れやすいのは当然で、当園のあの大きな水禽放養舎で気持ちよく飛んでいて金網に激突し足や嘴を折ったりすることが時折あります。ダチョウのような丈夫な足をもっている鳥でさえも骨折したりします。以上のような鳥たちの骨折は、なかなか治癒しないのが実状です。

3. 保護動物で多い骨折

保護動物では翼の骨折が目立つようです。治療で骨折部がうまくくっついてくれたとしても、そのつ

き方がいいんで飛べないものも出てきますし、ケガがひどく、最初から骨折した翼を切りおとさなければならぬものも少なくありません。

4. アスペルギルス症はペンギンを筆頭に多い

アスペルギルスという名称は、カビの名前ですが鳥の体温は一般に40~44℃もあるため、カビの繁殖には至適な温度となりこの病気が多くみられます。その最たるものはペンギンで、先天的にかかりやすい

素因をもっているようです。

5. 寄生虫は来園時にシャットアウト

新しい動物が来園したときは、検査期間を設け、糞便検査その他を行い、寄生虫がいたら駆虫してしまいます。ですから検査後は寄生虫はみられないはずですが、時に検出されることがあります。

ドバトやスズメによってもちこまれることがあるため、糞便検査などは定期的を実施しています。

6. キジ類におこりやすい伝染病

現在ニワトリでは数多くの伝染病が知られワクチンによる防疫が実施されていますが、当園でも、ニューカッスル病や禽痘などが過去に発生したことがあるため、ワクチン接種は定期的に行なって、発生を防いでいます。

7. バンブルフット

これもペンギンに多い病気ですが、床がコンクリートである動物舎で飼育されている鳥に少なからず見られる足の裏にできる瘤(コブ)です。この瘤は、ケガなどをしてしだいに大きくなっていきます。この部分を外科的に切り取って治療を行ないますが、床の状態がよくならないかぎりなかなか治りにくい病気です。

飼育課：森本 委利

動物園ニュース

§ 新着動物

1月10日、クロエリハクチョウのオスが来園しました。1983年11月にオスが死亡して以来メス1羽で飼われていましたので、待望のオスの来園です。来園したオスはまだ幼鳥ですので、今年の繁殖は無理

かもしれませんが、同居もうまくいきましたので、今後の繁殖が楽しみです。南園アシカ舎横の池で展示していますのでご覧下さい。

また、アンデスイワドリとキンムネチョウビテリムクが12月29日に来園し、小鳥舎に展示しました。

§ トカラヤギ誕生

今年の誕生動物の第1号はトカラヤギでした。1月14日、オス2頭、メス1頭の三ツ子が生まれました。母親は1984年12月生まれの若いママですが、哺乳もうまく行なっており、順調に成育しています。三ツ子の場合3頭共うまく育



つことは珍らしく、今回も1頭が少々虚弱で心配させられましたが、生まれた日の夜に保温したのが良かったのか、その後は順調に育っています。今年も次々とたくさん動物たちが誕生することでしょう。

§ トラ年の行事あれこれ

トラ年にちなんでトラに関する行事がいくつか行なわれました。

1月2日と3日の両日の午後1時から3時までの2時間、北園トラ舎前でトラの観察会を行ないました。数台の望遠鏡を設置し、トラを観察してもらい、職員が説明しました。両日も好天で入園者も多く、望遠鏡で真近に見るトラ

.....*

現在の飼育動物数

(1985年12月31日現在)

哺乳類	13目	112種	416点
鳥類	18目	175種	590点
爬虫類	3目	33種	64点
計	34目	320種	1,070点

は迫力満点で人気を集め、トラ舎の前は人だかりが絶えませんでした。

また、1月5日にはレクチャールームで土井園長の「トラのお話」があり、90名以上の入園者の方々が来場し、トラに関する民俗学的な話から生態までいろいろなトラの話題に耳をかたむけました。

大阪動物園ボランティアーズも、1月12日にトラ舎前でスポットガイドを行ない、トラの頭骨や餌などを材料にトラの説明を行ない好評でした。

一方、北園展示館では、「エトにちなむ郷土玩具展」を1月2日から2月11日まで開催し、京都市在住の郷土玩具収集家の平田嘉一氏提供による全国の郷土玩具約200点を展示しました。

§ サル舎建設中

昨年12月上旬から、サル舎の新築工事に入っています。従来の南園サルアパートは、1962年に建設されたもので、老朽化が目立ち建替えが望まれていました。新しいサル舎は、レクチャールーム南側に建設中で、宝クジ協会からの寄付で建設するヒビ舎と大

阪市の予算で建設するサル舎の2つの部分から成っています。大中小の3つの大きさの部屋が14室でき、完成後は14種のサル類を展示します。ステンレス金網を取り入れ、雨天観覧路側はガラス張りにするなどたいへん見やすくなっています。3月末には完成の予定です。

●お知らせ

「楽しい動物のお話とスライド映写の会」
 2月16日 ゴウのお話
 3月16日 可愛い小獣類のお話
 4月20日 美しいキジ類 飼育と繁殖の話
 いずれも、午後1時より
 場所：北園レクチャールーム
 ぜひご来場下さい。

.....*

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。4月までの休園日は下記のとおりです。
 2月17日(月)、3月17日(月)、4月21日(月)、
 開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。

ゆとり満喫、信頼のカード。



ショッピングから海外旅行まで、
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

近鉄グループカード **KIPS** (キップス)

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでの
ご利用にはいろいろな特典が。

近鉄百貨店 各店クレジットセンターへ
お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ
●アベノ店7階 ●上本町店10階 ●東大阪店本館 ●奈良店4階 ●西京都店1階
(京都ファミリー)

ひかりのくに

監修・阪口浩平
指導・宮武頼夫

●オールカラー

むし

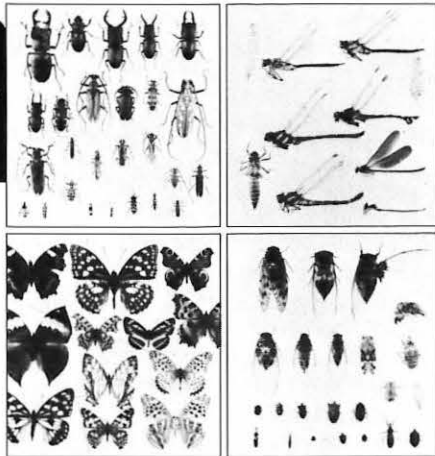
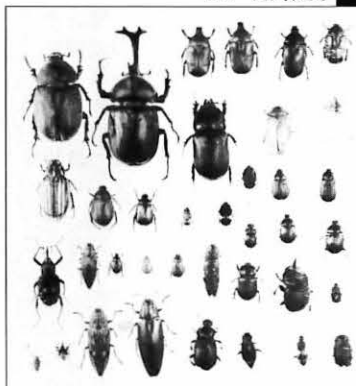
くらしとかいかた

今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。
きっとすばらしいことに出会えるはずだ。

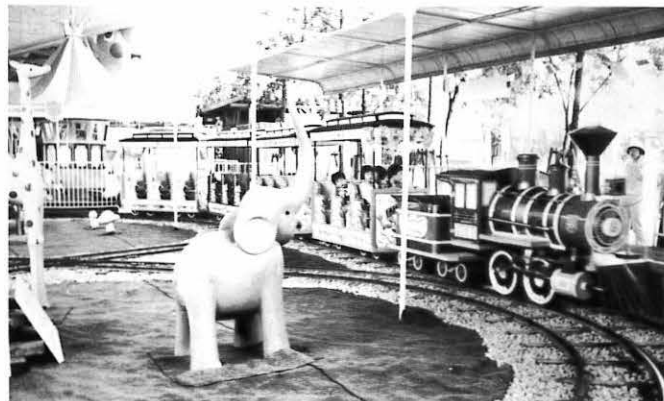
85変形
84ページ

580円

ひかりのくに株式会社
〒543 大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりものが待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

世界初の最高感度 (カラープリント用フィルム) 1600 新登場!

カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031



フジカラー HR 1600

ISO1600/33° 135-24枚撮



- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキでお申し込み下さい。

動物観察の手引に 天王寺動物園 ガイドブック

のご購読をおすすめします。
(1冊¥450)園内各売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶白山町6-74 ☎(06)771-0201

動物文学会主宰 平岩米吉著

新刊

猫の歴史と奇話

(定価・2600円)
A5判・260頁
口絵挿画・113図

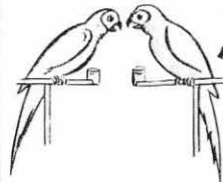
猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

主な目次

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第一章 猫の歴史
欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで | 第二章 猫股伝説
老猫化けてさまざまな怪異をなす |
| 第三章 猫の報恩談
蛇を咬んだり、金を運んだりする | 第四章 野性猫の存在
裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡米など |
| 第五章 猫の奇話(上)
長命、多産、三毛猫などの形態の奇話 | 第六章 猫の奇話(中)
長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動 |
| 第七章 猫の奇話(下)
マタタビを媚薬とする奇妙な習性など | 第八章 益獣としての猫
あらゆる角度から猫の生態と効用を探究 |

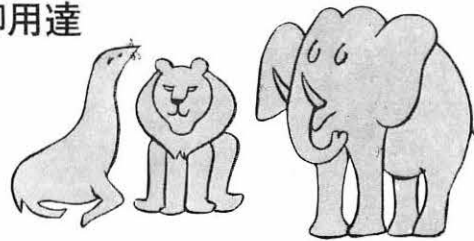
発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

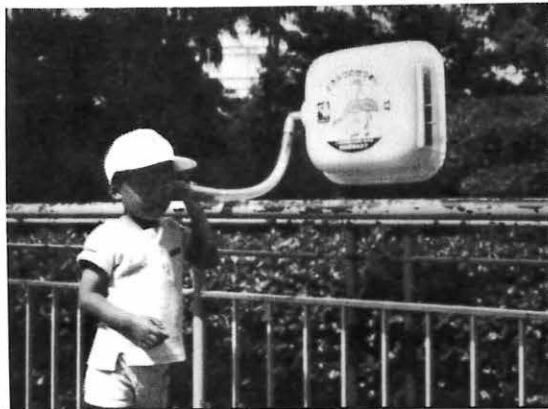
- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヶ所にあります

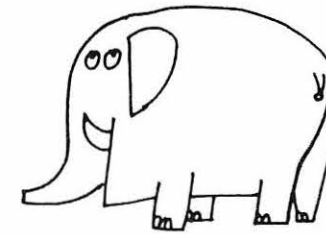
関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

大阪市天王寺動物園内
中央売店
☎(06)771-0973



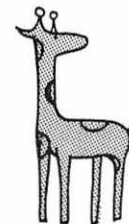
天王寺動物園内



南園売店

代表者 松谷良子
大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話(06)771-7110番

園内でのお写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ

自然の
おいしさ



雪印ヨーグルト

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

ペットを飼っている人にも飼えない人にもこの1冊

ペット大図鑑

あらゆるペットの飼い方、殖やし方、
治療法がひと目でわかります。

1部/犬・猫など 2部/リス・アライグマなどの小動物
3部/金魚・熱帯魚・海辺の生きもの 4部/洋鳥・和鳥・鳩など
5部/は虫類や昆虫など、めずらしい生きもの 巻末/ペットの便利情報ガイド

総監修 / 中川道朗 (大阪市天王寺動物園協会専務理事)
監修 / 浦東信夫 / 榊原安昭 / 内田 至
石原重厚 編修協力 / 宮武頼夫

特別価格 **2,950円**
(定価3,300円) ※送料無料

同封の専用用紙または郵便局の振替用紙にて
お申込みください。振替口座 / 大阪5-98163
(株)グリーンアド・コミュニティ
〒550 大阪市西区西本町3-1-46 TEL. (06) 531-0415

好評発売中



サイズ **AB判** (25.7×21cm)
カラー **160**ページ・全 **400**ページ

なきごえ 昭和61年2月10日発行 (毎月1回10日発行) 第22巻 第2号 (通巻246号)

編集 / 大阪市天王寺動物園

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共)

編集委員

(土井良彦 / 伊東重朗 / 小出雅三 / 樽本 勲 / 中川哲男 / 前田豊彦 / 宮下 実 / 長瀬健二郎 / 榊原安昭 / 森本委利)
(大野尊信 / 山下奉之 / 農本武志 / 野口秀高 / 早川 篤 / 藪野幸司 / 堀 弘 / 大川光雄)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823